

# I ま え が き

平成26年度の一般会計決算額は、歳入総額が6,113億1,700万円、歳出総額が6,073億1800万円となり、歳入・歳出とも増となりました。

歳入総額については、前年度決算額と比較すると5.5%の増となっています。これは、市税の増、消費税率の引上げによる地方消費税交付金の増、子育て世帯臨時特例給付金・臨時福祉給付金の給付による国庫支出金の増、及び等々力陸上競技場の整備による市債の増などによるものです。

歳出総額については、前年度決算額と比較すると5.5%の増となっています。これは、子育て世帯臨時特例給付金の給付及び「待機児童ゼロの実現に向けた新たな挑戦」に基づく保育受入枠の拡大によるこども費の増、臨時福祉給付金の給付による健康福祉費の増、等々力陸上競技場及び五反田川放水路の整備による建設緑政費の増、減債基金借入金償還元金の増加による諸支出金の増などによるものです。

また、歳入歳出差引額から、平成27年度への繰越事業に充当する繰越財源を差し引いた実質収支額、いわゆる剰余金は1億8,000万円となりました。

平成26年度の財政状況は、引き続き厳しいものとなり、市税や地方消費税交付金は増加したものの、臨時財政対策債が大幅に減少したことから、減債基金から32億円の新規借入を行いました。

減債基金からの新規借入については、平成24年度決算からの累計額が126億円となり、引き続き活用が見込まれていることから、本市の財政状況は、当面厳しい状況が続くものと想定されます。

今後の財政運営におきましても、多様化する課題への的確な対応など、「必要な施策・事業の着実な推進」と、財政の健全化による「持続可能な行政基盤の構築」の両立に向けた取組を進めてまいります。

以下、平成26年度決算のあらまし、並びに、平成27年度上半期予算執行のあらましについてご説明いたします。